

智頭の山と暮らしの未来ビジョン(案)についての意見

NO	意見(要約)	意見に対する考え方
1	西暦と和暦、どちらかに統一してはどうか。	西暦に統一します。
2	「杉」という言葉がないのでは、もっと「杉」にこだわっては?	ご意見のとおり、伝統ある智頭杉はこの町の宝です。杉に関する記述につきましては、智頭の林業史、ビジョンの4(林業経営「木材」と「人材」)に記載しています。 一方で、戦後の拡大造林で奥山や川沿いまで針葉樹を植え過ぎ、生態系に悪影響を与えているのではないかという声もあります。 智頭杉の伝統を引き継ぎつつ、環境条件に即した適地適木に努めていくことも併せて重要と考えています。
3	木材利用を推進することを目的としたワンストップな窓口や相談先を明確にしてはどうか。	このビジョンを推進する中で、具体的な取り組みとして改めて検討していきたいと考えています。
4	森林施業を任せたい森林所有者と自伐・森林組合を山村再生課がマッチングする「うちの山相談」フォームを作ってみたらどうか。	町では、森林所有者から提供可能な山を登録し、自伐型林家等に情報を提供する「山林バンク」の運営に取り組んでいます。 このビジョンを推進する中でも、マッチングを行う主体のあり方を含めて、具体的な取り組みとして改めて検討していきたいと考えています。
5	木材の利用を促進するため、家を建てたい人に軸組工法の良さ等を学んでもらい、智頭杉をアピールする必要がある。	町では、智頭材、在来工法等を消費者にPRするツアーの開催の支援を実施しています。 このビジョンを推進する中でも、具体的な取り組みとして改めて検討していきたいと考えています。
6	基本方針の1-(3)地域の担い手創出、4-(1)人材育成はどうちがうのか?	1-(3)が「地域の担い手」であるのに対し、4-(1)は「産業の担い手」の育成を意図しています。両者への違いが明確になるよう、表記を工夫しました。
7	ビジョンが1~4の町として優先順位は?コンテンツが多く、ビジョンに向かっていけるのか不安を感じる。	具体的なアクションを推進するためには優先順位をつけなければなりません。ビジョンの項目に優先順位はなく、バランスが重要と考えています。課題は山積みですが、どの項目も重要なものであるということ、まずは住民の皆様にご理解いただくことがスタートと考えています。
8	国からは木材生産量の増加が求められているが、町としては量ではなく質を求めていくと伝えるビジョンであると未来のためになると思う。	木材の質は、林業・木材産業に関わる人材とセットだと考えています。ビジョンの4-(1)「人材育成」、4-(3)「智頭林業のブランド力向上」等を具体的な取り組みとして推進していくことにより、智頭林業の価値を高めていくことが可能になると考えています。

9	<p>ビジョンに描く森林を維持するには、人と森林を結びつけることが必要。 森林へ足をはこび、森林の恩恵等の価値観が継承されていく場、教育の提供が必要。 また、木材の出口を町内に生み出す仕組みや仕事が増えることにより、木材を利用する暮らしのなかに継承の場が育まれる。</p>	<p>持続的な山林経営、木材の利用促進などに官民それぞれの立場で取り組んでいくことが重要と考えています。 現在、山菜採り等、山の多岐にわたる情報、文化等を学ぶ研修会の開催を支援しており、多くの方に森林への理解を深めていただいています。また、町産材住宅の建設支援を行うなど、木材の利用を促進しています。</p>
10	<p>智頭町のこれからをよりよくするためには、これまでの暮らし、営み、産業の価値を見直すことが大切であり、これらの有益性を正しく評価するため、可視化された評価基準を設けるべきである。 提言としては国連が示したSDGsに即した「SDGsポイント」を町独自で作成する。客観的で公正なポイントを付与し、それに対する報酬を自治体が支払い、このポイントの合計が智頭町のSDGsに貢献していることの客観的指標となる。智頭町そのもののアピールが世界に発信でき、賛同者との交流が生まれる。</p>	<p>特に環境面での取り組みに関して客観的に有益性を評価できれば、より具体的なアクションにつなげることが可能になります。 ご意見を踏まえ、引き続き「SDGs未来都市」として、森林の持続可能な管理や住み続けられるまちづくり等に取り組んでいきたいと考えています。</p>
11	<p>林業をめぐる智頭町の現状とビジョンが項目ごとに整理されており、理解することができた。今後どのような具体的な行動を開始するのかが課題。</p>	<p>まずは、町民のみなさんにビジョンを理解していただくため、会の開催を検討しています。このビジョンは、みなさんと山について学び、共に暮らすための道しるべであり、具体的な行動についてもみなさんの意見をお聴きしながら取り組んでいきたいと考えています。</p>
12	<p>智頭町のお宝(智頭町の林業景観・保存調査報告書にある文化的財産、森林・林業に関わるお宝等)を全て展示する智頭町全域にまたがる「智頭の森林・林業ミュージアム(仮称)」の設立を提案する。建物がある博物館ではなく、智頭町全体とする。</p>	<p>智頭町では、日本の山村の原風景に出会えるまちとして「歴史と文化を活かしたまちづくり」をテーマに、まち全体がエコミュージアム、生きた博物館であるという理念のもと、まちづくり(交流観光)に取り組んでいます。 ご意見を踏まえた取り組みも検討していきたいと考えています。</p>
13	<p>智頭町の山に対してどう向き合うかを考えるキッカケとなるツールとなると感じる。今後、どのように活かしていくのか、多くの町民に見える形で進めて欲しい。</p>	<p>多くの町民に見える形で進めていきたいと考えています。</p>
14	<p>ビジョン(案)パブリックコメント募集後、完成までの期間に町民との打ち合わせの場が設けられていないことが残念。町民を置いていかないビジョン作りであって欲しい。</p>	<p>町民のみなさんからいただいたパブリックコメントの意見を踏まえ、ビジョンの修正を行っています。このビジョンは、町民が山について学び、共に暮らすための道しるべであり、具体的な行動についてもみなさんの意見をお聴きしながら取り組んでいきたいと考えています。</p>
15	<p>智頭に暮らす人が主体となった方がより、智頭の山を知り、次世代へ山と暮らしを繋いでいける。</p>	<p>このビジョンは、森林・林業・木材関係者のみを主体としたものではなく、智頭に暮らす人を主体としています。みなさんと智頭の山について学び、智頭の暮らしを繋いでいきたいと考えています。</p>

16	電子メールでもパブリックコメントを募集していたが、そのアドレスは使用することが出来なかった。	意見募集に使用したアドレスが使用することができず、大変ご迷惑をおかけしました。今後、役場で意見を募集する際には、すべての方が利用できるアドレスを利用します。
17	ビジョンには現状はしっかり記述されているが、具体の目標として、10年後or30年後には木材生産量〇m ³ 、新規就業者〇人等を明らかにしてほしい。	具体的な数値目標等の設定については、このビジョンに基づく取組を推進する中で検討していきたいと考えています。
18	木材が売れないから木材価格が低迷している。木造の住宅建設を増やさなければ、山と暮らしの未来を論じても本末転倒。	町では、町産材住宅の建設支援や、県外での智頭材の販売促進等に取り組んでいます。このビジョンに基づく取組を推進する中で、町内の木材関係者の販売力を高めるための人材育成に取り組んでいきたいと考えています。
19	補助金がないと成立しない林業事業には耐えられない。川上だけでなく川下も山について考えていくことは重要、今すぐ何かをしなければ山はどんどん荒れてしまう。山にころがっているタンコロから蒔きを作って販売したり、木に触れることで木を好きになってもらう取り組み等素晴らしいことはたくさんある。	町では、森林の循環利用を千代川流域全体で考えるフォーラムを開催したり、木と身近に関わり、良さを知ってもらうため、新生児への木のおもちゃの贈呈や木育キャラバンの開催などの木育事業に取り組んでいます。このビジョンに基づく取組を推進する中で、具体的な内容について改めて検討していきたいと考えています。